



資産運用こぼれ話 感謝の投資と応援の投資

寄稿：岡本 和久

私は投資には二種類あると思っています。「感謝の投資」と「応援の投資」です。感謝の投資というのは我々の日々の生活を支えてくれるすべての企業に「ありがとう」という気持ちを込めてする投資です。我々の生活は今や全世界の産業、企業によって成り立っています。したがって、このタイプの投資は全世界の株式インデックス・ファンドを長期的に保有するのが早道だといえます。



一方の応援の投資は自分がこの企業こそ良い世の中を創る上で大きな貢献をしてくれると思う企業の株式を長期間保有する投資です。一般的に言えば ESG(環境、社会、企業統治)に優れた企業ということになるでしょう。しかし、単に ESG と名を冠した投資信託を買うことではありません。

重要なことは投資家が個人としての想いを銘柄選択に反映させることだと思います。世界中の投資家がそれぞれの願いを込めて様々な企業のオーナーとなる、ちょうど選挙のようなものです。これはまさにアクティブ運用の世界です。

応援の投資は若いうちから積立投資を行い、自分の退職後のために備える目的に合っているといえるでしょう。なぜなら全世界の株式を保有することがインフレヘッジになるからです。株式を保有することは企業のオーナーになることです。ですから、世界のどこかの企業にインフレ利得が発生すれば最終的にはそれは株主のもとに還元されるのです。

これによって退職後の資産形成でもっとも重要な購買力の維持が可能となります。さらに世界経済全体の実質成長を享受することで「プラス・アルファ」を得られるのです。これはポートフォリオのなかの「コア」に当たります。

一方、応援の投資は市場に存在する企業の平均よりも社会への貢献度が高いと思われる企業を買うことになるのでこれらは「サテライト」としての位置づけになるでしょう。本当に社会の役に立つ良い企業が多く長期投資家に支えられてこそ社会そのものもより良くなるでしょう。



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

良い企業が成長することで市場の中でそれら企業の時価総額が大きくなります。その結果、感謝のポートフォリオに占める良い企業の比重が高まります。そして、それが資産形成の効率を高め退職後の経済基盤をより強固なものにしてくれます。こうして応援の投資と感謝の投資はコインの裏表のようにお互いに作用しつつ、我々の生活をより良くしてくれると同時により良い社会を創ることに貢献するのです。

(この原稿は投資手帖 2018 年 8 月号に寄稿したものに加筆修正したものです)